年間授業計画　新様式例

都立拝島高等学校　令和8年度（２学年用）　　教科　国語　　科目　文学国語

教　科：　国語　　科　目：　文学国語　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　2 学年　　1 組～　　7 組

教科担当者：（１組：大迫）　　（２組：大迫）　　（３組：大迫）　　（４組：大迫）

（５組：大迫）　　（６組：大迫）　　（７組：大迫）

使用教科書：（『新編　文学国語』（大修館書店）　　）

教科　国語　　の目標：

【知識及び技能】　生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】　生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】　言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目　文学国語　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	領域 書	領域 読	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	A「書き手の意図をつかむ」 【知識及び技能】 表現の特色を踏まえ、表現や言葉遣いについて理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 要旨や要点を把握することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や世界に関わろうとする。	「そとみとなかみ」 ・筆者が大切だと考えていることを読み取り、理解する。 ・筆者の考えと比較しながら、自分の生き方について考えを深める。	○	○	○	【知識・技能】 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。［(1)ア］ 【思考・判断・表現】 ・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、展開、描写のしかたなどを的確にとらえている。［B(1)ア］ 【主体的に学習に取り組む態度】 ・筆者の考え方と比較しながら、自分の生き方について考えを深めようとしている。	○	○	○	6
	定期考査						○	○		1
	B　「物語」 【知識及び技能】 古典を読むために必要なきまり、特有の表現を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 作品に興味を持ち、登場人物の言動や話のおもしろさを読み取ろうとしている。	「星取り」（『醒酔笑』）「児の飴食ひたること」（『沙石集』） ・古文の特徴的な表現を意識して現代語に改めたり、文中にある動詞を基本形に直したりすることに慣れる。 ・必要な語句を補って現代語訳をしながら、話のあらましをつかむ。 ・話の内容をしっかりと理解したう上で、かぐや姫の心情の変化を読み取る。	○	○	○	・古典の世界を楽しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。 ・「人間らしさ」とはどのようなことか、学習の見通しを持って話し合いに参加しようとしている。	○	○	○	13
	定期考査						○	○		1
2学期	A　「物語」 【知識及び技能】 古典を読むために必要なきまり、特有の表現を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 作品や文章に表れているものの見方や感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 登場人物の人物像について考察し、主体的に話し合いに参加する。	「能登殿最期」（『平家物語』） ・長めの古文に慣れる。 ・尊敬表現から内容理解を深化させる。 ・「語りの文学」の特徴とも言える音便や対句、人物像の対比を理解する。 ・当時の武士の生き方について、時代背景とともに考察する。	○	○	○	・辞書や文法テキストを調べながら、本文を正確に現代語訳できている。 ・尊敬表現に着目して、人物関係の理解に繋げている。 ・教経と知盛の人物像について、根拠立てて説明できる。 ・教経と知盛の関係性について、時代背景を踏まえた上で考察、分析をしている。	○	○	○	13
	定期考査						○	○		1
	B　「小説」 【知識及び技能】 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 文章の構成や表現の仕方、特色について考察する。 【学びに向かう力、人間性等】 作品に興味を持ち、小説の文体や登場人物の心情について理解を深める。	『山月記』 ・漢文訓読調の文章について、本文の構成や表現の仕方を読み味わう。 ・作品に描かれた登場人物の心の機微を自身に引き付け、考察する。 ・作者・作品と中国古典文学との関わりを知り、典拠となる「人虎伝」との違いを理解する。	○	○	○	・作品の構成や登場人物の描き方、文章表現などを吟味し、自分なりの解釈を持っている。 ・当時の時代背景なども踏まえ、作品の世界観を読み味わっている。 ・「人虎伝」との比較や「臆病な自尊心」「尊大な羞恥心」の解釈を通して、作品の主題について、他者と意見交換をしている。	○	○	○	14
	定期考査						○	○		1
3学期	A「随筆」 【知識及び技能】 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深める。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 【学びに向かう力、人間性等】 作品に興味を持ち、自分の周りのできごとと比較しながら作者の考え方を捉えようとしている。	「行く河の流れ」（『方丈記』） ・古語や文法の知識を生かして本文を正確に読む。 ・『方丈記』の主題や「無常観」、文体的特徴を踏まえて、その文学史的意義を理解している。 ・作品内の複数の具体例が何をたとえているかを正しく理解し、作者の意図を読み取っている。	○	○	○	・古語や文法の知識を生かして本文を正確に読み、特徴的な文体に慣れ親しんでいる。 ・比喩や具体例、対句や倒置といった表現技巧を正しく理解し、作者が述べようとしていることを適切に読み取ることができる。 ・「無常観」について、自分の経験や身の周りの事例から考え、文章にまとめたり発表したりすることができる。	○	○	○	15
	定期考査						○	○		1
	B「漢文」 【知識及び技能】 我が国の言語文化の特質や外国の文化との関係について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 「読むこと」において、作品の成立背景などを踏まえ、内容を解釈する。 【学びに向かう力、人間性等】 故事成語の用例を調べて発表する課題において、積極的に取り組んでいる。	「四面楚歌」（『史記』） ・漢文訓読の基礎知識を定着させる。 ・故事成語について、本文を正確に読解し、成り立ちを理解する。 ・学んだ故事成語が、実際にどのような場面で用いられるかについて考える。	○	○	○	・漢文訓読のきまりに従って、正しく読解できている。 ・漢文に由来する故事成語が現代の日本語として用いられることについて、具体例をもとに理解できている。 ・故事成語の用例調査に粘り強く取り組み、故事成語を効果的に使えるようになっている。	○	○	○	4 合計 70